

文教常任委員会記録

平成23年3月7日（月）

於：第1委員会室

平成23年3月7日（月）

出席委員	1
枚方市議会委員会条例第21条による出席者	1
本日の会議に付した事件	1
出席状況の報告	2
開議宣告（午前10時7分）	2
請願第5号 中学校給食の早期実現を求める請願	2
君家通夫教育委員会事務局管理部長の資料説明	2
西田政充委員の質疑	4
中学校給食に係る小・中学生へのアンケートの実施方法について	
中学校給食に係る小・中学生へのアンケート結果に保護者の意向が反映されている否かについて	
中学校給食に係る小・中学生へのアンケート回収率が100%にならなかった理由について	
中学校給食に係る小・中学生へのアンケート調査対象の抽出率について	
中学校給食に係る小・中学生へのアンケート結果を踏まえた教育委員会の見解について	
中学校給食に係る小・中学生へのアンケートの質問項目に工夫を凝らすことについて要望	
中学校給食に係る保護者へのアンケートを実施しなかった理由について	
再度、中学校給食に係る保護者へのアンケートを実施しなかった理由について	
中学校給食に係る保護者へのアンケート実施について要望	
府内等の完全給食実施団体における中学校給食の残菜状況について	
府内等の完全給食実施団体における中学校給食の残菜状況の詳細な調査について要望	
中学校給食導入に係る大阪府の見解及びそれを受けた府内各市町村の動向について	
中学校給食導入に係る教育委員会の見解について	
中学校給食導入に係る教育長の見解について	
中学校給食導入に係る副市長の見解について	
中学校給食導入に係る保護者の意向、他市の残菜の状況等を把握して本請願審査を慎重に進めることについて要望	
広瀬ひとみ委員の質疑	10
現在及び導入予定の市町村を含めた場合の府内の中学校給食実施率について	
学校給食法に規定されている学校給食の目標に対する見解について	
府内等の完全給食実施団体における中学校給食の残菜率について	
大阪府の中学校給食導入に係る補助制度の内容について	
中学校給食導入に係る教育委員会での議論の有無について	
中学校給食導入に係る教育委員の見解について	

中学校給食導入に係る教育委員会での議論の実施について	
中学校給食導入に向けた大阪府への働きかけについて	
中学校給食導入に係る枚方市P T A協議会からの意見、要望等について	
枚方市P T A協議会から中学校給食導入を求める要望が出されているか否かについて	
導入予定の市町村を含めた場合の府内の中学校給食実施率について	
西田政充委員の再質疑	1 6
中学校給食導入に係る教育委員会委員長の見解について	
池上典子委員の質疑	1 6
中学校給食導入に係る教育委員会の見解について	
再度、中学校給食導入に係る教育委員会の見解について	
財源的な課題を解決した場合の中学校給食導入に係る教育委員会の見解について	
市民の獲得競争を見据えた中学校給食導入に係る副市長の見解について	
出井 宏委員の質疑	1 8
大阪府の中学校給食実施率が低い理由について	
スクールランチに対する教育委員会の見解について	
本市のスクールランチの実施状況について	
休憩（午前11時39分）	2 0
再開（午前11時55分）	2 0
西田政充委員の再質疑	2 0
中学校給食に係る保護者の意向、残菜状況等を把握するため本請願の閉会中継続審査を申し出ることについて要望	
池上典子委員の再質疑	2 0
大阪府の中学校給食導入に係る補助制度の動向等を踏まえ本請願をより慎重に審査するため閉会中継続審査を申し出ることについて要望	
広瀬ひとみ委員の再質疑	2 0
中学校給食導入に係る方向性を早期に定めるため本請願を採決することについて要望	
出井 宏委員の再質疑	2 0
中学校給食導入に係る大阪府の動向等を踏まえた上で本請願を審査するため閉会中継続審査を申し出ることについて要望	
梶田義則委員の質疑	2 1
中学校給食導入に係る本市の方向性、大阪府の動向等を踏まえた上で本請願を審査するため閉会中継続審査を申し出ることについて要望	
堀野久兵衛委員の質疑	2 1
中学校給食導入に係る議論を尽くすため本請願の閉会中継続審査を申し出ることについて要望	
岡林 薫副委員長の質疑	2 1
中学校給食に係る保護者の意向、大阪府の動向等を見極めるため本請願の閉会中継続審査を申し出ることについて要望	
請願第5号閉会中継続審査の申し出採決	2 1

散会宣告（午後0時2分） 21

文教常任委員会 委員会記録

平成23年3月7日（月曜日）

出席委員（8名）

委員長	三島孝之	委員	池上典子
副委員長	岡林薫	委員	榊田義則
委員	広瀬ひとみ	委員	出井宏
委員	堀野久兵衛	委員	西田政充

枚方市議会委員会条例第21条による出席者

副市長	木下誠	学校給食課課長代理	衛藤幸也
教育委員会委員長	宮川勝也	学校給食課課長代理	小川哲子
教育長	南部一成	教育委員会事務局学校教育部長	
教育委員会委員長職務代理者			奈良昌幸
	記虎敏和	学校教育部長兼教育推進室長	
教育委員会委員	山下薫子		下山栄治
教育委員会委員	徳永博正	学校教育部長兼教育相談課長	
教育委員会事務局教育次長			渡邊聡
	村橋彰	教職員課長	俣野浩一
教育委員会事務局管理部長		学務課長	矢野千加子
	君家通夫	教育推進室教育指導課長	
管理部参事	林洋司		國光利彦
管理部次長兼学校給食課長		教育委員会事務局社会教育部長	
	中山宏		岸弘克
教育総務課長	川口哲治	社会教育部次長	中田善久
教育企画課長	木挽孝規	中央図書館長	大本英治
学校規模調整課長	益田正治	施設整備室課長	山本浩久

本日の会議に付した事件

1. 請願第5号 中学校給食の早期実現を求める請願

市議会事務局職員出席者

議事課係長	吉田章伸	議事課主任	井田昌誕
議事課主任	櫻井啓佑		

~~~~~

○三島孝之委員長 開議に先立ち、事務局職員から委員の出席状況を報告します。吉田議事課係長。

○吉田章伸議事課係長 本日の会議のただいまの出席委員は、8名です。

以上で報告を終わります。

(午前10時7分 開議)

○三島孝之委員長 ただいま報告しましたとおり、出席委員は定足数に達していますので、これから文教常任委員会を開き、昨年12月7日の本会議で本委員会に付託された請願第5号 中学校給食の早期実現を求める請願の審査を行います。

○三島孝之委員長 審査に先立ち申し上げます。

本委員会の傍聴は、委員長においてこれを許可します。

なお、本委員会室に確保した傍聴席を上回る傍聴希望者が来られた場合は、第4委員会室でモニタースピーカーによる傍聴を許可します。御了承願います。

○三島孝之委員長 これから審査に入ります。

請願第5号 中学校給食の早期実現を求める請願を議題とします。

○三島孝之委員長 まず、本請願について理事者から資料が提出されていますので、簡潔に説明を求めます。君家管理部長。

○君家通夫教育委員会事務局管理部長 それでは、お配りしております資料につきまして、御説明させていただきます。

まず、中学校給食についてのアンケート結果についてでございます。

お手元の資料の2枚目、中学校給食についてのアンケート結果についてをごらんください。

本アンケートは、前回の文教常任委員会におきまして御意見をいただき、実施したものでございます。

1. 実施内容の(1) 調査実施時期は、平成23年2月7日から2月10日でございます。

(2) 調査対象及び回収数でございますが、調査対象は、小学校45校の5・6年生の各々1クラス、中学校19校の全学年の各々1クラスを抽出し、小学校の回収数は2,805枚、中学校の回収数は1,911枚でございます。

次に、2. 調査結果の概要についてでございます。

1点目の「小・中学生は“家で作る弁当”を最も多く選択」でございますが、新たな質問である「中学校の昼食で最も良いもの」の回答では、小・中学生ともに「家で作る弁当」が最も多い割合を占めております。

恐れ入りますが、別紙資料の5ページをごらんください。

A4横の資料でございます。

9. 中学校の昼食で最も良いものの表でございますが、小・中学生ともに1位は「家で作る弁当」で、小学生58.2%、中学生51.4%となっております。

小学生の2位は「学校給食」の18.5%、3位は「お店で買った弁当、パン、おにぎりなど」で15.5%でございます。

中学生の2位は「お店で買った弁当、パン、おにぎりなど」の21.1%で、3位が「学校給食」の17.6%となっております。

先ほどの2枚目のページにお戻りいただけますでしょうか。

2点目の「中学校給食の実施については反対が賛成を上回り過半数を占める」でございますが、中学校給食の賛否につきましては、反対が賛成を上回り、過半数を占めております。

たびたびで恐れ入りますが、次のページをお開き願います。

別紙の資料の1ページの一番下の4. 中学校給食の賛否の表でございますが、中学校給食につきまして、小学生では「賛成」が33.5%、その下の「反対」が65.5%、中学生では「賛成」が43.8%、「反対」が55.4%と、小・中学生ともに「反対」が「賛成」を上回り、過半数を占めております。

一方、前回と比較いたしますと、小・中学生ともに「賛成」の割合が増加しています。

恐れ入ります。先ほどの2枚目のページにお戻りください。

2. 調査結果の概要の2点目の項目の3行目でございます。

一方、前回との比較では、小・中学生ともに賛成の割合が増加しています。このことは、賛成の理由の中で「家庭で食べられないものが食べられる」の割合が増えていること、また、反対の理由の中で「給食はまずい」や「給食はもう飽きた」の割合が減少していることなど、小学校給食の充実に伴う給食に対する意識の変化が要因の一つであると考えているところでございます。

次に、3点目の「毎日弁当を持参している中学生は増加」でございますが、中学生への質問であります「昼食は弁当を持ってきますか」の回答では、毎日弁当を持ってくる割合が増加しているところでございます。

恐れ入ります。別紙資料の6ページをごらんください。

10. 昼食は弁当を持ってきますかの表でございます。

「毎日弁当を持ってくる」は78.5%、「週3～4回程度持ってくる」は17.7%で、この2つで96.2%となります。

前回のこの2つの質問では、「毎日弁当を持ってくる」が71.5%、「週3～4回程度持ってくる」が24.9%で、合計は96.4%と、合計数では今回とほぼ同様となりますが、今回、毎日弁当を持ってくる割合が7%増加しております。

次に、このほかの調査項目の概要を御説明させていただきます。

今ごらんいただいております別紙資料2ページをお開きください。

5. 中学校給食賛成の理由の表でございます。

この質問は3項目を選択する設問となっておりますが、小学生では2行目の「親の手間が省ける」が一番多く25.4%、2番目は次の行の「栄養のバランスがとれる」で20.9%、3番目が下から5行目の「弁当だと荷物になる」で15.2%となっております。

中学生では、同じく「親の手間が省ける」が1番目で23.5%、「弁当だと荷物になる」が2番目で20.3%、3番目が「栄養のバランスがとれる」の17.7%となっております。

次に、3ページをごらんください。

6. 中学校給食反対の理由の表でございます。

この質問も3項目を選択する設問となっております。

小学生では、下から5行目の「弁当の方がよい」が一番多く23.3%、2番目がその4行上の「給食当番がいや」で18.5%、3番目がさらにその2行上にあります「給食では

嫌いなものが出る」で15.0%となっております。

中学生では、1番目に「給食当番がいや」で20.3%、「弁当の方がよい」が2番目で16.9%、3番目が「給食では嫌いなものが出る」の13.2%となっております。

次に、4ページをごらんください。

7. 朝食は食べていますかの表でございます。

小学生では「毎日食べている」が85.7%で、前回より4.3%の増加、中学生では80.8%で、前回より5.1%増加しております。

次に、同じページのその下にあります8. 朝食を食べない理由の表をごらんください。

小学生で一番多いのが1行目の「朝起きるのが遅いので食事の時間がない」で42.9%、2番目が次の行の「なんとなく食欲がない」で32.6%、3番目が下から5行目の「めんどうくさい」の9.8%となっております。

中学生でも、小学生と同様に「朝起きるのが遅いので食事の時間がない」が1番目で41.9%、2番目が「なんとなく食欲がない」の31.7%、3番目が「めんどうくさい」の13.6%となっております。

5ページ及び6ページにつきましては、先ほど説明させていただいたとおりでございます。

また、この別紙資料の次に、参考資料といたしまして、中学校給食についてのアンケートにおける回答数の状況を添付いたしておりますので、あわせて御参照いただきますようお願いいたします。

以上が中学校給食についてのアンケート結果についての説明でございます。

次に、中学校給食における残菜の状況につきまして、御説明いたします。

資料の最後のページをごらんいただけますでしょうか。

中学校給食における残菜の状況でございますが、まず、1. 大阪府内市町村の状況でございます。

これは、完全給食をすべての中学校で実施しています8団体について調査したものでございます。小学校との比較におきまして、5つの自治体で中学校の方が残菜が多いという状況でございます。

次に、2. 人口類似団体の状況でございますが、この表は、全国の人口30万人以上50万人未満の自治体で完全給食を実施している38団体の状況につきまして調査したものでございます。こちらにつきましても、小学校との比較におきまして、中学校の方が残菜が多いという自治体が60%以上となっております。

以上、雑駁な説明でございますが、中学校給食についてのアンケート結果及び中学校給食における残菜の状況の説明とさせていただきます。よろしく願いいたします。

○三島孝之委員長 これから質疑に入ります。質疑はありますか。西田委員。

○西田政充委員 おはようございます。

まず、質問に入らせていただく前にお礼を申し上げたいと思います。

前回、すなわち昨年12月10日の本委員会におきまして、私の方から、今回の請願の内容に対する審査を十分に行うために、小・中学生やその保護者、そして、いつも子どもたちのそばにいらっしゃる先生方にも中学校給食に関するアンケートを実施していただきたいということと、現在中学校給食を導入している自治体における残菜の実態についてお調べい



ただきたいという要望を述べさせていただいたことに対しまして、一定の御対応を丁寧にしていただきまして、感謝を申し上げます。

それでは、今回、小・中学生に対して実施していただいたアンケートに関する質問から入らせていただきます。

まず最初に、今回のアンケートをどのような形で実施していただいたのか、お尋ねいたしたいと思います。

例えば、学校で配布して即座に子どもたちが回答したのか、あるいは、一旦家に持って帰って家で記入して後日学校に持ってきてもらったのかなど、その辺のところを具体的にお聞かせいただきたいと思います。

○中山 宏管理部次長兼学校給食課長 アンケートの実施の方法につきまして、御説明いたします。

今回のアンケートにつきましては、小学校につきましては終わりの会を、中学校につきましては終礼等の時間を使いまして、各学校で実施いたしました。

以上でございます。

○西田政充委員 ということは、今回のアンケートの結果には、保護者の意向は直接には影響していないということでしょうか。

○中山 宏管理部次長兼学校給食課長 はい。

アンケート用紙を御家庭には持ち帰らずに、学校の方でアンケート調査を行っておりますので、児童、生徒の意向が確認できたのではないかなというふうに考えているところでございます。

○西田政充委員 それでは、ただいまお答えいただいたような形でアンケートをとっていただいたにもかかわらず、回収率が100%でないのはなぜでしょうか。

○中山 宏管理部次長兼学校給食課長 配布枚数は各クラスに在籍する児童・生徒数でございます。欠席者があったことなどから回収率が100%となっていないものでございます。

○西田政充委員 子どもたちの名誉のために言うという形になるかもしれませんが、今の御答弁では、項目3の表にある回収率が100%でないのは、子どもたちの責任ではなくて、欠席者がいたことによる仕方のない結果であるというふうに確認をさせてもらいたいと思います。

次に、このアンケートは、そのほとんどが昭和63年度に実施したアンケートに準じた内容になっているわけですが、その抽出率、すなわち対象学年の全児童・生徒に対するアンケートに答えてもらった児童、生徒の割合についてなんですが、この割合は昭和63年度と比べて変化があったのかどうか、お聞かせいただきたいと思います。

○中山 宏管理部次長兼学校給食課長 小学校では、昭和63年度と同様に各学年から1クラス抽出しましたが、今回の抽出数の対象者全体に占める割合は、昭和63年度を上回りまして、35.1%（後刻訂正発言あり）となりました。

また、中学校では、昭和63年度は約5分の1程度の抽出で、今回は小学校と同様に各学年から1クラスを抽出したところですが、抽出数の割合は、前回は若干下回るものの、ほぼ同程度の18.7%（後刻訂正発言あり）となっております。

○西田政充委員 アンケートを実施するに当たっては、その抽出率というのは重要なファクタ

一であるというふうに一般的に言われておりますので、その昭和63年度の値とほぼ同等か、それ以上であったというのはよかったのではないかなと思っております。

次に、4. 中学校給食の賛否の結果に関してですけれども、前回と比べて小・中学生ともに賛成の割合が増えているということでありました。この結果に関しましては、先ほど管理部長から御説明がありましたように、学校給食の充実に向けていろいろと御努力いただいた結果が表れているのではないかなと私も思っております、関係するすべての皆様には感謝を申し上げたいと思います。

5. 中学校給食賛成の理由と6. 中学校給食反対の理由なんですが、これは大変興味深い結果が出たかなと思っております。

賛成の理由として、先ほど御説明にもありましたけれども、一番多い意見が「親の手間が省ける」ということでした。私自身も中学2年生の息子がおりまして、私がお弁当を作ったというのは数回しかないんですけれども、私が作る時、その数回はいつも電子レンジでチンとするだけで作ったようなものだったんですが、そういった親の立場からしても、非常にその心遣いがうれしく、涙が出るような結果になっていると思いますし、反対の理由で比較的多いという「給食では嫌いなものが出る」とか、「給食当番がいや」というように、子どもたちの率直な気持ちがよく表れていると思っております。

そこでお尋ねしますけれども、この項目4・5・6のアンケート結果を受けて、教育委員会としての御見解をまとめた形でお聞かせいただきたいと思っております。

○中山 宏管理部次長兼学校給食課長 恐れ入ります。

今の御質問にお答えさせていただきます前に、先ほどの抽出数でございますが、私が小学校では35.1%、中学校では18.7%と答えておりましたのは、配布枚数の割合でございます、回収枚数で申し上げますと、小学校が34.1%、中学校が17.4%というような結果でございますので、改めて御報告させていただきます。

それでは、ただいま御質問いただきました件につきまして、お答えさせていただきます。

まず、賛成の理由で「親の手間が省ける」が児童、生徒ともに1位を占めておりますのは、最近の社会情勢の中、保護者に対して子どもなりに配慮した結果の数値であるというふうに思われます。

また、反対の理由で「給食当番がいや」という回答が増加していることにつきましては、子どもたちは給食当番や掃除当番、係活動などを通して自分の役割や責任を果たすことの大切さ、お互いのよさや可能性を認め合うことができるものでありまして、残念な結果であると考えているところでございます。

以上でございます。

○西田政充委員 ここで、項目6について、1点だけ、ちょっと残念なところがあるなと思われましたので申し上げたいと思うんです。

項目6の一番左側の区分でございますけれども、「弁当の方がよい」という項目があります。この項目6の質問では、中学校給食反対の理由、逆に言えば弁当の方がよい理由を聞いているわけですので、この質問をしてしまうと、どうしてもこの回答の割合が高くなってしまふんじゃないかなと思っております。

恐らくは昭和63年度に質問されているのでそのまま質問されたんだと思っておりますけれども、

中学校給食反対の理由をよりの確に把握するためにも、質問内容を工夫していただきたかったなということ、これは意見として述べさせていただきたいと思います。

そして、質問項目 9. 中学校の昼食で最も良いものでは、「家で作る弁当」が最も大きい値になっています。これは、子どもたちに聞けば、もう当然の結果だと思っております。

もちろん保護者の皆さん方が愛情を込めて、手間暇かけて作られたお弁当でもあります。そして、まあ親御さんとしたら子どもたちの好きなおかずを入れるでしょうし、嫌いで残すようなものはあんまり入れないと思います。量についても、その子どもに合った量を入れたりするわけです。学校給食とはその辺が違いますので、やっぱりどうしてもこういう結果が出るのではないかなと思っているんです。

だからこそ保護者の中学校給食に関する御意向をぜひ聞いていただきたいと前回の委員会でお願ひしたわけなんですけれども、今回のこのアンケートは小・中学校の児童、生徒だけにしか行っていただけていないわけですが、なぜ保護者に対しては行っていただけなかったのか、お答えいただきたいと思います。

○中山 宏管理部次長兼学校給食課長 お答えいたします。

今回は請願が出されまして、また、毎年、PTAからも中学校給食につきまして御意見をいただいておりますことから、保護者の中学校給食の実施を望む声は、児童、生徒より高いものであると認識いたしております。

平成21年2月に大阪府公立中学校スクールランチ等推進協議会が作成いたしました大阪府内における小・中学校給食についての最終報告書につきまして、府内6市の調査状況がまとめられております。その中で、おおむね57%から69%の保護者が中学校給食を希望されておまして、本市におきましても同じような傾向にあるものと考えますので、今回、児童、生徒を対象とした調査を行ったものでございます。

以上でございます。

○西田政充委員 やはり、保護者も含めた市民の皆さんの意向を調査して、総合的に判断する必要があると私は思っているんですが、いかがでしょうか。もう一度お答えいただきたいと思います。

○中山 宏管理部次長兼学校給食課長 委員がおっしゃられたとおり、総合的な判断をすることは、本当に必要なことであると考えております。

○西田政充委員 ただいまの御答弁では、ほかの市町村で行った調査結果があり、それらが十分参考になって推測できるので保護者の御意向は調査しなかったというようなことでしたけれども、やはり、私自身は、保護者の皆さん方のお声を聞くというのは大変重要なことだと思っております。賛成か反対かだけでなく、なぜ反対なのか賛成なのかという理由もしっかりとお聞きすること自体も大切ですし、その内容も大切だというふうに思っております。

この中学校給食の導入の賛否について、その理由も含めて保護者の皆さんにもぜひお聞きいただきたいということは、今回の要望とさせていただきたいと思っております。

最後に、アンケート調査に関すること以外について、数点お尋ねしたいと思っております。

今回、中学校で完全給食を実施している自治体に対し給食の残菜について調査していただきましたけれども、「中学校の方が小学校より残菜が多い」と答えた市町村が60%を超えているという結果であったということですね。その理由とか、あるいは残菜の量などについて

て、具体的に把握できているのでしたら、お聞かせいただきたいと思います。

○中山 宏管理部次長兼学校給食課長 食べ残しの状況や中学校給食の課題等につきまして、調査を行いました。

食べ残しの状況につきましては、本市で実施しております残菜率、また各市で実施している残菜の指標を求め、指標がない場合は小学校と中学校のどちらの方が食べ残しが多いかの記入を求めました。

指標のない団体が多く、また、食べ残しの多い理由の詳細についても把握できておりませんが、ダイエット等で給食を食べないなどの理由が一つではないかなと考えております。

また、具体的な残菜率というのは、個々にはあるんですが、指標が異なりますので、なかなかお伝えすることができないという状況でございます。

○西田政充委員 今回の請願の内容について審査をするに当たって、やはり、既に中学校で完全給食を実施されている自治体の残菜の実態というものを把握して分析することは、非常に重要といたしますか、必要なことではないかなと思っております。

そんなにたくさんの自治体でなくてもいいと思うんです。中学校の給食において子どもたちがどんなものをどれだけ残してしまっているのかということについては、今後のためにもお調べいただけたらありがたいなと思っております。これも今後に対する要望とさせていただきますと思います。

長くなって申し訳ございません。あとは大阪府の動向に関して質問させていただきます。

新聞やテレビ等で報道されていますので、多くの皆様が既に御承知のとおりなんですけれども、大阪府の橋下知事が公立中学校での給食実施を拡大するということを表明され、その導入補助費が来年度予算案に盛り込まれたことを受けまして、完全給食を実施していない幾つかの市や町がその導入に向けた動きをしているというふうに聞いています。

そこで、中学校給食に関する大阪府の考え方と、それに対する府下の市や町の動きについて、御説明をいただきたいと思っております。

○中山 宏管理部次長兼学校給食課長 お答えいたします。

大阪府が中学校給食導入促進に向けた基本的な考え方（案）を示し、公立中学校への給食導入事業といたしまして、必要な予算が平成23年度予算案に盛り込まれました。

その概要は、補助期間を平成23年度から平成27年度までの5年間とし、総額予算は246億円であるとのことでした。

また、新聞によりますと、中学校給食が未実施であった箕面市、池田市、高石市、高槻市、寝屋川市などの12市町が導入を表明されたと報道されておりますので、引き続き状況把握に努めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○西田政充委員 ただいま御報告いただきました中学校給食に関する大阪府の考え方と、それに対する府下の市や町の動きを受けて、教育委員会として中学校給食導入に関してどのように考えておられるのか、お聞かせいただきたいと思っております。

○君家通夫教育委員会事務局管理部長 本市では、人口急増期に多くの学校建設に取り組んできたこと、また、厳しい財政状況の中にあつて、この間、各小・中学校の教室へのクーラーの設置や耐震補強事業などに優先して取り組んできたことなどから、中学校給食の実施には

至っておりません。

現在、教育委員会には、小・中学校における英語教育や少人数指導の推進、トイレ整備を初めとする多くの課題がございます。中学校給食につきましてもその一つではありますが、建設費やその後の運営などに多額の経費を要するものでありますし、また、今回実施いたしましたアンケート結果における児童、生徒の思いにつきましても考慮していかなければならないと考えております。

○**西田政充委員** 課題として考えていただいているということで、一番の問題は予算というふうに感じるんです。財政的な面なのかなと受け取っているんですが、やはり、教育委員会事務局の長として、南部教育長にお答えいただけたらなと思います。

○**南部一成教育長** ただいま管理部長が説明をしておりましたが、学校給食調理場の建設に試算で50数億円かかる、また、運営経費として毎年6億円から6億5,000万円かかるということを考えてみますと、教育施策における多くの課題があり、その優先度や重要度を考慮する中で、慎重に対応していく必要があると考えています。

○**西田政充委員** 3月3日付の産経新聞によりますと、先ほども御報告が若干ありましたけれども、府下の12の市と町が中学校給食の導入を表明して、例えば、お隣の寝屋川市では、馬場市長がじきじきに橋下知事を訪ねて、市立の全12中学校で平成25年度からセンター方式で導入する方針を伝えられたということでありました。このように、中学校給食の導入を表明された市や町では、そこの最高責任者である市長とか町長が積極的な動きをされているわけです。

そこで、本市のトップとしてのお考えはどうか、その辺をお聞きしたいところなんです。本委員会には竹内市長は出席されていらっしゃいませんので、木下副市長に中学校給食に関する考え方について、お尋ねしたいと思います。

○**木下 誠副市長** 中学校給食の件につきましては、今、教育委員会の方で一定の考え方を示しておりますが、財政的な面から言いますと、やはり、建設、その後の運営、こういうことに非常に多額の経費を要する事業であろうかと思っております。

先般、総務委員協議会の方でも、長期財政の見通しということで報告させていただきました。そういった中で、今、教育長の方からありましたように、建設費あるいは運営経費というものを考えますと、実施するためには大変厳しい状況にあるのではないかなと思っているところであります。

ただ、事業につきましても、教育施策だけでなしに、ほかの施策もたくさん抱えている中で、やはり、そういった優先順位などを総合的に考えていかなければならない。そういった中で、一つの課題として学校給食があるのではないかなと考えているところであります。

今後とも、この件につきましては、そういった総合的な検討をしていく中で、慎重な対応を行っていくと考えているところでございます。

○**西田政充委員** 先ほど管理部長の方から御説明がありましたけれども、大阪府の中学校給食導入促進に向けた基本的な考え方（案）、これを私自身の個人的な資料としていただいているんですけれども、これによりますと、いわゆる大阪府の中学校給食促進事業の今後のスケジュールといたしましては、この2月から3月にかけて大阪府議会で議論されて、そして、同時に市町村から意見聴取をすると。

そして、4月から5月にかけて中学校給食導入促進に向けた補助制度の概要（案）を作成し、その後に市町村へ提示し、意向確認をします。

そして、5月あるいは9月に中学校給食導入促進に向けた補助制度を確定させて、補正予算によって平成23年度の必要な経費を計上するという事になっています。

最後に申し上げたいんですけども、今回の請願の内容の審査に当たっては、この大阪府の動きを十分に注視しながら、また、保護者の皆様の御意向や残菜の状況などを把握しながら、慎重に進めるべきではないかなという考え方を述べさせていただいて、私からの質問を終わらせていただきます。

**○広瀬ひとみ委員** 先ほど西田委員の方からもアンケートの結果についていろいろと質問がありまして、お答えもお聞かせいただいていたんですけども、大阪府教育委員会の方針を受けて新たに実施しますという方向性を明確に打ち出しておられる大阪府下の市町村が出てきていますよということでしたよね。

そういった自治体を実施するという事になると、これまでずっと7.7%という数字が言われ続けてきたんですけども、今の大阪府の実施率は何%になってきていて、やるよという自治体を実施するということになれば何%に引き上がっていくという見込みになっているのかということについて、お聞かせいただけますか。

**○中山 宏管理部次長兼学校給食課長** お答えいたします。

今、広瀬委員お示しのとおり、平成21年5月1日現在の大阪府下での中学校給食の実施率は、7.7%でございました。それが、翌年の平成22年5月1日現在では、10.5%まで伸びてございます。

それと、先ほど西田委員お示しの大阪府の中学校給食導入促進に向けた基本的な考え方（案）の中で、平成22年度末に12.3%というふうに大阪府は見込んでいらっしゃるんですけども、これは、今の広瀬委員の御指摘のような、これから実施するということには入っていない数字かなと考えております。

例えば、選択制の中学校給食をもう実施しておられる吹田市、富田林市の実施校の数が増えることによって、平成22年度末には12.3%になると大阪府の方は見込んでおられるというふうに認識しております。

以上でございます。

**○広瀬ひとみ委員** 実施予定の自治体の学校数はわかりますよね。（中山管理部次長兼学校給食課長うなずく）今からの作業で申し訳ないんですけども、すべてが実施した場合、大阪府下の実施率がどうなるのか、計算しておいていただきたいと思うんです。後からお答えをいただけたらと思いますので、よろしくお願ひします。

先にほかの質問をさせていただきたいんですけども、お答えの中でちょっと気になった部分がありまして、子どもたちに対するアンケートを実施していただいて、中学校給食に反対と言っている子どもたちの理由の中に「給食当番がいや」というのが小学校で18.5%、中学校で20.3%ありまして、これが昭和63年度よりも増えているんですよ、小学校も中学校も。

賛成か反対かということ言えば、先ほどおっしゃったように、小学校の給食が本当によくなってきていることであるとか、食育の推進ということを反映してのことだと思うんです。

けれども、賛成と答える子どもたちが昭和63年度から比べたら、ちょっとびっくりするぐらい増えたなと思っているんです。

非常に増えてきているんですが、反対と言った子どもの中で給食当番を嫌がる子どもたちが増えていると。それに対して、中山次長は、残念な結果であるというふうにお答えになられたわけですね。それから、君家部長の方は、今後、中学校給食を考えていくときには児童、生徒の思いを考慮しなければならないというお答えをされたんですね。

中学校給食というのは教育ですよ。教育ということで、学校給食法第2条の中で学校給食の目標が掲げられているわけですね。その中で、「学校生活を豊かにし、明るい社交性及び協同の精神を養うこと」、「食生活が食にかかわる人々の様々な活動に支えられていることについての理解を深め、勤労を重んずる態度を養うこと」ということが書かれているわけなんです。

その学校給食法の目標と照らした場合、率先してそういう給食活動をやっていくことも含めて子どもたちを育てていかないといけないというのが教育の目標なんじゃないかなと思うんですけれども、その辺はどうなんですか。

○**國光利彦教育指導課長** 今、広瀬委員が御指摘の勤労を重んずる態度を養うこととか、あるいは自己の責任、役割をしっかりと果たすといった部分については、学校教育の、特に道徳教育等でしっかりと指導もしていきますし、それから、いろいろな係活動であるとか、当番活動等において、日常的に指導もしているところです。

ただ、今回、こういった結果が出ておりますことにつきましては、昭和63年度当時に比べまして、今の中学生は週5日間の中で非常に忙しい生活を送っております。昭和63年度当時は土曜日の授業等もございましたが、今、5日間の中で授業をしております関係で、授業時数が非常に増えております。

それから、放課後については、部活動、塾に通っている生徒も増えてきているといった現状の中で、友達とゆっくり話したりするような、そういったくつろげる時間をとれるのが昼休みに限られているような状況がありまして、子どもたちも大変忙しくなっている状況の中で、唯一ゆっくりできる昼休みの時間にそういった当番が入ってくるということについて、そのような答えをしているのではないかなというふうに推測されます。

ただ、最初に申し上げましたように、当番であるとか、いろんな役割、係活動、そういったことの責任をしっかりと自覚して、集団生活の向上のためにやり切っていくということを、今後とも指導していく必要があると考えております。

以上です。

○**広瀬ひとみ委員** 給食を通じて、そういうことをしっかりと身に付けていくということも、学校給食法の中で言われていることだと思います。ですので、子どもたちの意向を尊重するというのももちろんある程度大事なんですけれども、ここは、教育ということをしっかりとその位置付けの中に置いておかなければならないということ、ちょっと述べておきたいと思うわけです。

それから、残菜の問題についてなんですけれども、先ほど西田委員の方からどれぐらいなのかというのはちょっとわからない調査結果になっているというふうに言われていたんですけれども、アンケートでは何%ぐらい残菜があるのかというののもっとおられないというこ

とでいいんですよね。

○中山 宏管理部次長兼学校給食課長 指標がそれぞれ異なっておりますので、指標のあるところで記入をいただいているところもあります。

例えば10%前後であるとか、そういうお答えのあるところもありました。

以上です。

○広瀬ひとみ委員 中学校の給食は残菜率が高いので、非常にむだが出てくるのではないかと  
いうような御心配もあるかと思うんです。ただ、私はその残菜をどう見るのかというの、  
御意見としてちょっと申し上げておきたいと思うんですけれども。

お弁当がいいというふうに言っている子どもたちが何でお弁当がいいというふうに言っ  
ているのかというのは、このアンケートの結果からは残念ながら見えてこないですよ。そ  
の辺でもう少し工夫されたらよかったという御意見を先ほど言われていたんだと思うん  
ですけども、自分の子どもを見ていたら、お弁当は、自分の食べやすい、おいしいもの  
をトーカーに入れてくれるのでいいという意見がやっぱり多いんじゃないかなと私は  
思うんです。

ただ、給食となると、いつも自分の好きなものというわけにはいかず、食育の観点  
から、いろんな郷土食であったりだとか、いろんな国の食であったりだとかを取り入  
れるということになって、栄養のバランスがとれたものを提供するということにも  
なるので、残菜を少なくしていくとか、しっかりと食べてもらうということその  
ものが教育なんじゃないのかなというふうに感じるわけなんです。

それと同時に、おいしい給食を作っていく努力というのも大事な観点ではないか  
なと思います。そういう意味では、他市ではおいしい給食プロジェクトというのを  
立ち上げて、子どもたちの嗜好に単に合わせていくということだけではなくて、  
どうすればおいしい給食になるのか、そして、子どもたちがそこにどうか  
かわってきて、食育の目的が達成されるのかといったようなことを議論  
しながら、本当に工夫されているケースがあるんです。

そういう中で、これは足立区ですけども、平成20年度から残菜率を  
どんどんと減らしていくというような取り組みをされていたりという  
ようなこともあります。単に最初から、中学校給食は残菜率が高い  
から、それがイコールむだなんだということではなくて、今の残  
菜率をどうすれば減らしていくことができるのか、その減らして  
いく過程が教育なんだと思います。

大阪府教育委員会の会議でもこれを率先して進めていくんだ  
ということが議論されて、大阪府教育委員会が一丸とな  
って中学校給食を推進していくんだというようなことが報  
道されていましたが、その中で言われていることは、や  
っぱり食が基本だということなんだと思います。食べる  
ことが生きることの基本であって、食べることで体力が  
育まれ、そのことによって意欲が育まれ、そのことによ  
って夢を育む力を付けていく、そういうことだと思  
うんです。

そういう意味では、今、本当に中学校給食の実現に向  
けて足を踏み出していくのかどうかという分岐点に  
差しかかっているときだと思うんです。先ほどの教育  
長のお答えでは、相変わらず50数億円の初期投資  
がかかるんだよというお話だったわけですけども、  
これを大阪府教育委員会が施設整備費の半分は持  
ちましようよということを行っているわけでしょう。  
違うんですか。（中山管理部次長兼学校給食課長うなずく）  
それでは、ちょっとその辺の説



明をしていただけますか。

○中山 宏管理部次長兼学校給食課長 先ほど教育長が55億円というふうに申し上げましたけれども、それは、例えば共同調理場を2カ所建設した場合の試算でございまして、共同調理場の場合は、建設する敷地の用地購入費も含めた形で我々は試算しております。

今、府の方から示されておりますことにつきましては、中学校給食ができていない中学校に対して1校当たり2億1,000万円、その総額の半分という表現をされているところがございますので、若干、先ほど教育長が申された内容とは違うのかなということを考えているところがございます。

以上でございます。

○広瀬ひとみ委員 共同調理場は対象にならないということを表明されているわけでもないわけですね。中学校給食を今後進めていこうという先ほどのプランの中では、西田委員の方からありましたけれども、これから市町村と協議をしていくということになっているわけですね。

前回の委員会でも答弁がありましたけれども、橋下知事がその戦略本部会議の中で言われていたのは、国の補助のように2分の1というふうに言っているけれども実際は2割程度しかないということにはしないでおこうと。できるだけやっていただくということで実施するんだから、これはもう2分の1の補助ができるようにという態度で臨んでほしいんだということ、その会議の中で言われているわけなんですよ。

詳細については市町村が利用しやすいように協議をしていくというスケジュールになっているので、少なくとも今まで言っていた額を枚方市が全部負担しなきゃいけないという状況ではなくなっているんじゃないかなと思います。

国の補助の2割を入れて半分なのかとか、府が半分持ってプラス2割なのかとか、そういうこともまだはっきりされていないわけですね。これが7割になったら非常に大きいですよ。それから、手を挙げるところがなかったら土地の部分だってもう少し補助が要るじゃないかとか、また、ランニングコストについても本当は一定支援してほしいということも、私たちは府に対して要求したいと思っています。

そうしたことを求めていくことによって、今まで枚方市が考えていた負担よりはるかに軽減された形で実現に向けた動きというものが作られていくんじゃないかなと思いますし、前にも言いましたけれども、今、中学校給食というのは当たり前で、本当にどこでも実施に向けた動きが進められている中で、やっぱり、いつ足を踏み出すんだということが問われているんじゃないかと思います。

そういう意味では、枚方市の教育委員会としても、ぜひこういうことは一度しっかりと議論していただきたい。この中学校給食をやるのが子どもたちの教育にとってどういう位置付けになるんだということをしっかりと議論していただきたいなと思うんですけども、そういう議論はされたことがあるんですか。

○中山 宏管理部次長兼学校給食課長 これまでも、中学校給食につきましては、市民の方々、議会等からさまざまな御意見をいただいております。その中で、ある一定、小学校給食の方を充実させたという経過もございまして、中学校給食につきましては、他市の状況、例えばスクールランチでありますとか、そういった状況について十分確認をしてきたという経

過がございます。

ことしに入りまして、先ほどの広瀬委員、それから西田委員の方からも報告がありましたような府の方の動きが出てきているという状況であると考えているところです。

以上です。

○**広瀬ひとみ委員** 恐らく枚方市の教育委員会として議論されていないから、今、次長が御答弁いただいたんだと思うんですけども、それでしたら、ぜひ一度、各教育委員さんの中学校給食に対する考えを、一人一人に聞かせていただきたいと思います。

○**南部一成教育長** 教育委員会で中学校給食の部分について論議するということになると、5人での合議制の話になってくると思います。今、一人一人の御意見をということですが、委員会としてどういう判断をしていくのかというのは、別の機会に設けた委員会の中で論議していきたいと思っています。

○**広瀬ひとみ委員** 「委員会の中で論議していきたい」ということは、これから、枚方市の教育委員会としても、府教育委員会の会議の方向性などを受けて、一度議論の機会を持っていただけるということでもいいんですか。

○**南部一成教育長** 今までは、小学校の給食、共同調理場の充実をどういうふうにするかということを中心に論議しております。

大阪府からこういう提案がありましたときに、どれだけの運営費が出るのかということも論議をし、担当者の方から府の方に協議を申し入れさせていただいていたんですが、従来、大阪府は運営経費については支出していないということですので、今回はその中に入っておりますという話がありました。

そういうことも含めて、自校方式、今ある中学校の敷地に建てるということになると、1校当たり2億円程度だろうと。19校ですと38億円。本当に2分の1いただけるんだったら、19億円ほどの金額になってくるだろうと。

ただ、建設費のうち、持ち出しとしてはやっぱり40億円近くかかってくるのではないかという話の中で、本当に今進めていくべき内容については、小学校の共同調理場をどうしていくかという論議が大事だということで、今、詰めさせていただいています。

来年度に入ってから、大阪府からいろいろな案が出てくる。今、広瀬委員がおっしゃっていただいたような踏み込んだ形で、枚方市にとって有利な形の案が出てくれば、その部分について、これまで我々がやってきた少人数指導も含めた中でどういう優先順位が付けられるのかということも、十分論議をしていただきたいと思っています。

○**広瀬ひとみ委員** 「論議をしていただきたい」ということなので、府の詳細な方針が出てくれば、それを受けて枚方市の教育委員会としても御議論いただけるということですよ。

(南部教育長うなずく) これから教育委員会としても議論していただけるということですが、大阪府の方針待ちになるのではなくて、やはり、枚方市にとって有利な形で方針が定められるように働きかけをしていただきたいんです。

そうなってくると、枚方市も中学校給食の実現に向けてやりたいと思っていますよと言うことで、そういう働きかけになっていくわけですから、やっぱり方向性としてはやるんだということを明確に打ち出さないと、枚方市はやりたいけれどもこういう条件を持ってきていただかないとなかなかやることできないんですというふうにはならないんじゃないかなと

思うんですね。

一つには小学校の共同調理場の建て替え事業というのがあるんだということを以前から言われているんですけども、他市では小・中学校合わせた共同調理場というものもやっておられるところもありますし、共同調理場はどうせ建て替えるんだから、すべての中学校の中に敷地を確保することができないんですよということを、前の委員会の中で御説明されたわけです。

だから、単独調理場を建てられるところはいいけれども、どうしても敷地の関係で建てられないところについては、共同調理場方式でということになるかと思うんです。その際に、小学校と合わせた形でやったとしても半分の補助をいただけるのかどうかとか、そういったことも含めて、ぜひアプローチをしていただけると、本当にこれは可能性が開けてくるんじゃないかなと思うんです。その辺はぜひお願いをしておきたいと思うんですが、いかがですか。

○南部一成教育長 先ほども御答弁申しあげましたように、教育委員会の中で、何を優先していくのかということが大事だと思っています。その中での論議の一つの選択肢かなとも思います。

○広瀬ひとみ委員 私は、早くその議論をしていただいて、待ちじゃなくて、やっぱり積極的に推進する方向で動いていただきたいと思います。

ただ、今のお答えですと、待ちの状態、それを受けた上で枚方市としても考えるということだと思いますので、そういう意味では、今、出されている請願が議会で採択されることによって、枚方市の教育委員会の対応というの、もう少し前向きに変えていただけたらと、答弁を聞きながら改めて強く感じたところであります。

先ほど保護者については何でアンケートをとらなかったんだということを聞かれていたんですけども、そのお答えの中で市のPTAからは意見を伺っているというお答えがあったんです。これは請願として出されてきていますが、枚方市PTA協議会から伺っている意見とはどういう意見なのか。中学校給食を実施してほしいという要望がもう出されているということですか。

○中山 宏管理部次長兼学校給食課長 年に1度、枚方市PTA協議会と教育委員会が懇談をさせていただくんですが、その懇談の中で、中学校給食の実施についての御要望を、御意見としていただいているということがございました。

以上でございます。

○広瀬ひとみ委員 それは、枚方市PTA協議会全体として中学校給食の実施を求める要望をされているということでもいいんですか。

○中山 宏管理部次長兼学校給食課長 全体でということではございませんでして、枚方市PTA協議会の各専門委員会の中で、例えば中学校部会でありますとか、小学校部会の中で、御意見をいただいているというふうに我々は認識しております。

○広瀬ひとみ委員 その各部会で中学校給食を実施してほしいという御要望が出されているということでもいいんですか。（中山管理部次長兼学校給食課長うなずく）はい、わかりました。

もし先ほどの数字が計算できていれば、教えていただきたいと思います。

○中山 宏管理部次長兼学校給食課長 今、大阪府内で中学校が465校ございまして、その

中で中学校給食を現在実施しているところが57校でございます。仮に、新聞報道されております未実施の12市町のすべてで実施されるとしますと、そこが208校になりますので、合計で265校。大阪府下の中学校の総数が465校でございますので、約57%ではないかと考えています。

○**広瀬ひとみ委員** もうそれで半数以上になってくるということですよ。そうなったら、本当に、いつまでもこの問題を置いておいていいのかということが、ますます問われるんじゃないかなと思います。

以上で質問と意見を終わらせていただきます。

○**西田政充委員** 先ほど南部教育長の御答弁で、どうしても私自身納得できないところがあります。やはり、今回の件に関して教育委員さんの御意見を聞くというのは、全然問題ないことだというふうに私は思っております。

それぞれにということはいたしません。枚方市での導入云々にまで行かなくても結構です。教育委員会委員長に、中学校給食についてどのように認識をさせていただいているのか、その思いといいますか、考え方を聞かせていただきたいと思います。

○**宮川勝也教育委員会委員長** この請願をいただきました保護者の皆さんの思いを十分に受け止めておりますので、今までも教育長あるいは副市長の方から申し上げていましたような経費の問題も含めまして、その辺のところを十分に考慮しながら、慎重な対応が必要であると考えております。

以上です。

○**池上典子委員** 一番最初の認識のところなんです、全国的に中学校給食を実施された時期、教育委員会の方では、小・中学校の建設に迫られたという形でまずお示しになったんです。しかし、例えば、人口類似団体、30万人以上50万人未満のアンケートが入っているんですけども、これなんかやっぱり都市部なわけで、当時、45市の中の7市以外の38団体も中学校で完全給食を実施しているわけです。

あの当時は、例えば、枚方市であれば130を超えるラスパイレス指数だったわけです。そういう右肩上がりの時代の中で、やっぱり、枚方市は中学校給食に対して事業の思いがなかったんじゃないかという、すごく憤りのようなものを持っているんです。今回もそうなんですけれども、一時期はお弁当が基本だということに固執された時代もありました。

確かに、このアンケート調査の数字なんかは、子どもたちなんかはこうしてほしいと思うのがこんなに少ないのかということはあるんですけども、本当に行政としてお金の問題なのかということ、今回、取りあえず聞いてみたいと私は思うんです。お金があったらやるのか、それとも、事業としてはかなり優先順位の低い事業と考えていらっしゃるのか。

どなたでも結構です。教育長でも結構なんですけれども、行政としての統一的な見解として、お金がないから今ここで立ち止まっているのか、それとも、お金があったとしてもほかの事業を優先させていく、かなり優先順位の低い事業と違っていらっしゃるのかということ、一度確認しておきたいと思います。

○**中山 宏管理部長兼学校給食課長** 我々、小学校給食を充実させることにつきましても、例えば、本当にアルマイト食器を使っている時代もございましたし、また、先割れスプーンを使っている時代もございまして、それにつきましては、何とか子どもたちによい環境で給

食を提供したいということもございまして、できるだけ人件費を圧縮する中で、例えば米飯委託ですとか、調理業務委託をする中で、食器も耐熱性の食器に改善することができたという経過もございまして、お金の問題というのは本当にシビアであると思います。

ただ、中学校給食を実施するとなりますと、今、小学校給食だけでも年間約12億円の運営経費がかかっております。中学生になりますと、生徒数も半数程度になりますが、それでも約1万2,000食程度は提供する必要がございます。その中で、運営経費が、小学校給食で12億円ですから、中学校給食になりますと恐らく6億円程度。6億円というのは、我々担当課としましては、なかなか重たい数字ではないかと考えているところでございます。以上です。

○池上典子委員 担当課じゃなくて、教育委員会としての見解をお尋ねしたいと思います。

○南部一成教育長 今、経費の問題を次長が申し上げましたが、耐震のこととか、それ以外にクーラーのことも含めまして、今、年間4億円程度の経費がかかっています。

さらに、少人数指導をやりたいというふうに考えていたんですが、今現在、1・2年生が35人学級で、3年生になったときに40人学級になるということで、1・2年生のクラスが1クラス増える。その部分を市独自で費用を出しています。

それをすべて進めていくとなると、60数名の教員が要するということになります。平均の給料を500万円なり800万円なりにするかということになるんですが、全体の平均給与から800万円とすると、4億数千万円かかってくる。

その辺のところでは事業を選択するとしたら、今、財政局といろいろ協議していますが、我々として、教育委員会としてどれだけの経費が回せるのかと考えると、お金の問題を無視した形ではできないと思うんです。

学校給食は、学校給食法で実施することが、義務とは言いませんが、望ましいという形になっていますので、そのことを否定する気持ちはございませんが、今、私としては教育を進めていきたいなと思っています。

○池上典子委員 法で努力義務が課せられているわけですから、否定する気持ちはないとかではなくて、お金の問題さえクリアしたら、教育委員会として中学校給食を実施したいという思いを持っていらっしゃるのかどうかということ、私はお尋ねしたいんです。

○南部一成教育長 アンケートにもございましたけれども、子どもさんにも弁当を食べたいという部分がございます。お父さん、お母さんの協力のもとで、お弁当を作っていただいて、子どもも弁当を持参する、そういう形で、今、枚方市の教育の一部を支援していただいているのかなと思っています。

給食を実施せよという形で進めたときに、気持ちの中ではやはり経費をどうするのが頭の中をよぎってしまいますので、教育委員会としては委員さんの御意見を聞かなければならないと思いますし、事務局としては、次長が申し上げたように、経費が重いという部分でどう調整をしていくべきかということを考えています。

○池上典子委員 先ほどから申し上げておりますように、枚方市の行政としてやりたいんだけどお金がないからできないということに、今の教育長の答弁で私は何か疑問を持ったんですが、する必要のない事業みたいな形でとらえたんです。これは、教育長だけではなくて、別の機会にでも、枚方市としてのきちんとした意見をお聞きしたいと思っております。

今、府内でもし実施するところが増えていけば、57%の実施率で給食が実施されるんだというお話を伺いましたけれども、これから、やっぱり自治体間の市民の獲得競争に入っていくと思うんです。確かに、今、竹内市長の掲げられている花と音楽もいいと思います。公園整備があかんとは言いません。

これから、自治体の生き残りを懸けた市民の獲得競争の中で、お隣の寝屋川市だって中学校給食の実施に向けて考えているわけですから、教育委員会の問題としてだけではなくて、取りあえず、その辺の整理を行政すべての中で考えていただきたいと思うんですけれども、ちょっと副市長のお考えをお聞きしたいと思います。

○木下 誠副市長 今、中学校給食の問題というのが出ておりますけれども、総合計画とか、従前の計画の中には、これが行政の仕事に入っていなかったということも事実であります。しかし、今日的な状況の中で、やはり議論をしていく必要はあるのではないかと。

ただ、そういった中で、やはり、お金の問題というのは、避けて通れないと思うんですね。これだけの大きな事業をやっていくのであれば、きっちりとその辺のところを踏まえてやっていかなければならない。そういう意味では、慎重な検討が必要だと思っております。

今、まちづくりの関係で、それぞれが特色を持って自治体を経営していくということについては、本市におきましても、やはり、教育あるいは健康ということに重点を置きながら取り組んでいるということでもあります。さらに、これからの世の中を見ながら、どういったところに施策の重点を置いていくのか、これは、その都度また検討していかなければならないと思っております。

これだけをもってまちの特色ということではなしに、やはり、ほかの施策の中で、枚方市がどういう展開をして、どういうまちなのかというふうに言われるようにもしていかなければならない、こんなふうに思っているところでございます。

○出井 宏委員 この給食の件につきましては、どちらかといえば、大阪府が一番遅れているというか、やっていない。全国的に見て、やはり関東とかが進んでいて、地域によって物の考え方が非常に違うんじゃないかと。

大阪府下は何でこのようになってきたのですか。何か歴史的な経過を教えてください。

○中山 宏管理部次長兼学校給食課長 大阪府のまとめによりますと、学校給食法が適用された時期と大阪府が人口急増した時期が合致しているということで、府下の自治体が学校建設に追われたということでございます。

○出井 宏委員 学校建設でお金がかかったと、府下の中では、右向いても左向いても、中学校給食をやっていない市町村が非常に多いとよく言われますよね。他市の事情とか、他市の状況を見ていろいろ考えるという、こういう一つの物の考え方というか、そういう部分と、経済的なところがやっぱり一つのポイントだったんじゃないかなと、私はこのように理解しているわけでございます。

先ほどもいろいろなお話でしたが、橋下知事と平松大阪市長が政策ではいろいろと論争があるわけでございますけれども、今回、どうも大阪市ではスクールランチを給食という位置付けで実施するというような報道もあるわけでございます。基本的にスクールランチに牛乳を付けるという形だろうと私は理解しているんですが、教育委員会の方では、その件について、どのような理解をなさっていらっしゃるのでしょうか。

○中山 宏管理部次長兼学校給食課長 スクールランチにつきましては、大阪府の方が中学校給食未実施であったところにつきまして、例えば、外部からお弁当を購入されるという場合に最大で250万円の補助をされるということから、ただいま吹田市でありますとか、茨木市、高槻市の方で実施されたのですが、なかなか実施率が上がらないというふうに聞いております。

今回、大阪市の方も中学校給食に取り組むということでございました。ただ、大阪市の方も、今、出井委員の方からありましたように、従来、昼食事業ということでお昼に外部からお弁当を届けていて、それに牛乳を付けて主食、副食、御飯ということで完全給食という位置付けでされるような報道がございました。

恐らく、スクールランチと同様の方法でありますと、当初は、珍しさからか、注文される生徒さんが多いと伺っておりますけれども、徐々に注文されなくなって、お弁当でありますとか、御自宅の方から自分たちで選んだ形で持ってこられる、パンとかおにぎり等を購入されるといったように、スクールランチの利用率が伸びない状況にあると把握しているところでございます。

○出井 宏委員 枚方市も、テストパターンとして若干スクールランチをやっている学校があると思うんですけども、今おっしゃられたような形で、もうひとつパツとしていないという理解でいいんですかね。

○中山 宏管理部次長兼学校給食課長 枚方市におきましても、福祉工場の方から第三中学校と招提中学校の方へお弁当を運んでいただいて、日替わり弁当でありますとか、豚カツ弁当、唐揚げ弁当を提供しているところがあるんですが、どうしても1日数食程度という利用状況でございます。

以上です。

○出井 宏委員 先ほども保護者へのアンケートというお話もございました。私は、アンケートをとるときには、財政の状況とか、経費が幾らぐらいかかるのかとか、そういうことを、やはり市民の皆様にも情報提供すべきじゃないかなと思っているわけでございます。その上で、納税者の皆様方がどのような判断をなさるのかと。

こういうことをしていかなければ、これやりますよ、あれやりますよと言って、いいことでしたら、それはだれも反対されないと思いますが、そのことによって枚方市の財政がどうなりますよと言ったときに、また文句を言う。やっぱり、そういう形は芳しくないだろうなと思うわけでございまして、例えば、保護者の皆さんにそういうアンケートをとるときも、運営費は幾らかかるとか、選択する中にそういう情報を提供して、そして御回答をいただくと。やっぱり、そういうことが今の時代には非常に必要じゃないかなと感じている次第でございます。

また先ほどのスクールランチに戻りますけれども、給食だと大体4,000円ぐらいの保護者負担で終わるわけですね。現実問題として、スクールランチだと1万円ぐらいかかるわけなんです、400円とか500円のものを購入するわけですから。やっぱり、お母さんとかは、家庭の状態から見たときに、1万円かかるんだったら弁当にしようかと。これは、心情的にも、経済的にもそう思うのが常じゃないかなと。ここが非常に難しい問題です。

スクールランチをしっかりやるのであれば、もう民間にばんばんやってもらったらいわ

けでございます。そういう運営経費とかの部分では、どちらかといえば助かる部分が非常にあるわけでございますので、そういうのも一つの選択肢だと思いますけれども、民間に参入していただいたときに、数がばらつくというのも、事業を継続する上においては非常に厳しいものじゃないかなと思うわけでございます。

私は、給食をやるということにして、スクールランチというものを本当にやるんだったら、福祉工場で持ってきてくれるところだけというんじゃないで、全校挙げてしっかりやると。その上で、どういうものが課題なのかということもしっかり認識していかなければいけないんじゃないかなと思っているわけで、最終的には、やはり保護者負担というところが大きな課題じゃないかなと思うわけございまして、スクールランチというのも一つの選択肢じゃないかなと思っている次第でございます。

○三島孝之委員長 暫時休憩します。

(午前11時39分 休憩)

(午前11時55分 再開)

○三島孝之委員長 委員会を再開します。

○三島孝之委員長 重要な課題であるということで、2回にわたってそれぞれ御議論を深めてきました。まだまだ議論を尽くすべきという御意見もあったかと思えます。いろいろな要望や御意見があったことを踏まえた上で、本日の質疑を締めくくるに当たりまして、改めて、委員の皆様から、今後の委員会審査の進め方も含めて、お考えをそれぞれお伺いした上で取りまとめをしたいと思えますので、よろしくお願い申し上げます。

それでは、委員長から順次指名いたしますので、簡単に御意向をお伺いしたいと思います。西田委員。

○西田政充委員 今回の請願に対する審査におきましては、先ほど私の質疑の中でも申し上げさせていただきましたが、子どもたちだけへのアンケートでは検討資料として足りないと思っております。保護者の御意向をお聞きいただくということもしていただきたいですし、また、残菜の現状についても、もう少し具体的にお調べいただきたいと思っております。

その上で今回の審査を進めていければと思っておりますので、ぜひ閉会中継続審査をお願いしたいと思います。

○池上典子委員 先ほどから、副市長、教育委員会委員長のお話を伺っている中で、中学校給食については、やっぱり、やりたいんだけど、お金の問題、財政の問題があるということも、もっともなことだと思います。

これから、大阪府の動向で、財政についてかなり大きく踏み込んだ、何か政策的なものが出てくると思うんです。そういう意味で、慎重に審査するためにも、閉会中継続審査をお願いしたいと思います。

○広瀬ひとみ委員 私は、任期末も近付いておりますし、閉会中継続審査にしたとしても、これを審査するということができなくなりますから、先ほども質疑の中で言いましたけれども、やはり、その方向性を早く定めて、その上で府とも協議していただきたいという立場から、ぜひ採決をと思っております。

○出井 宏委員 私の質疑の中で申し上げました御意見を踏まえていただきまして、今、大阪府は議会をやっているわけでございますので、やはり、そこら辺の状況もしっかり踏まえて



検討すべきじゃないかということで、私の意見は、閉会中継続審査ということでございます。

○**梶田義則委員** この中学校給食を否定するものでは全くございませんが、先ほど来の委員会の中でもいろいろとお話がありましたように、失礼な言い方ですけども、教育委員会なり、行政としての方向性がまだ定まっていないところでもありますし、府の状況、国の動向ということからすると、今、市独自でこれについての答えを出すのは拙速かなという思いがいたしますので、私も閉会中継続審査の方で思っております。

○**堀野久兵衛委員** 私も、今の議論を聞いておりますと、まだまだ煮詰めなければいけない点がございますので、閉会中継続審査の方でお願いしたいと。

○**岡林 薫委員** 私も、いろんな場でいろんなお母様方と懇談する機会もございまして、今、確かに中学校給食の希望が多く、すごく声が高まっているということも認識しております。

ただし、今、各委員のお話を伺う中では、保護者の意向とか、また、現在、府議会が行われておりますが、一番大事な府の動向、また国の動向を見極めた上で、やはり閉会中継続審査をしていくべきではないかなと思いますので、よろしくお祈りいたします。

○**三島孝之委員長** 今の各委員からの御意向を委員長として判断いたしますと、広瀬委員からは、この場で採決すべきだという御意向をお示しいただきました。残りの6名の委員は、給食そのものを否定するというお考えではありませんでしたが、保護者のさらなる意向調査であるとか、大阪府の財政措置のしっかりとした見極め、あるいは国の動向等々をもう少し踏まえる必要があるということで、引き続き閉会中継続審査をとという御意向だったと思っております。

教育委員会におかれましても、あるいは市長部局におかれましても、この議論の経過を踏まえていただきまして、議論すべきはしっかりと議論していただくように、委員長からも、これは御要望申し上げておきたいと思っております。

○**三島孝之委員長** 他に質疑はありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）これをもって、本日の質疑を終結します。

○**三島孝之委員長** お諮りします。

本請願については、今後なお慎重な審査を必要とするため、議長に対し閉会中継続審査の申し出をすることに賛成の委員の起立を求めます。

（賛成者起立）

○**三島孝之委員長** 起立多数です。

よって、本請願については、議長に対し閉会中継続審査の申し出をすることに決しました。

○**三島孝之委員長** 以上で、本委員会に付託された事件の本日の審査は終了しました。

よって、文教常任委員会はこれをもって散会します。

（午後0時2分 散会）

委員 長                      三      島      孝      之

議      長                      池      上      公      也